

助成年度：平成 21 年度

[所属] 広島大学大学院 工学研究科

[役職] 准教授

[氏名] 田中 貴宏

[課題]

地方都市の人口減少を背景とした環境共生型土地利用シナリオの作成 —科学的知見と地域の知を融合した計画手法の確立を目指して—

[内容]

近年、我が国の都市では、少子化、価値観の多様化などを背景に、人口減少が見られるようになりつつある。事実、2005 年の我が国の「人口動態統計（厚生労働省）」では、1899 年に統計を取り始めて以来はじめて、人口の自然減が確認され、いわゆる「人口減少時代」に突入したと言われている。例えば政令指定都市である神戸市においても、市内の長田区では阪神・淡路大震災以降人口が回復しておらず、再開発事業等による高層集合住宅の建設を積極的に行っているにも拘らず、徐々にではあるが人口減少傾向にある。このように、人口減少の波は、既に比較的規模の大きな地方都市にも及び始めている。従来の環境共生型土地利用計画手法は、基本的には都市の成長を前提としたもので「都市をどのように誘導するか？」もしくは「開発から自然環境をどのように守るか？」といった「成長管理」としての意識が強い。しかし、人口減少時代が到来しつつある現在、環境共生型土地利用計画においても従来の成長管理的な手法から、既存の都市内の再構成手法への移行が大きな課題となるものと考えられる。特に、人口減少時代においては、都市の中の密度が低くなることが予想される。そのため、それにより都市内に発生する未利用空間・低利用空間を積極的かつ効果的に利用することにより、より環境と共生した都市をつくることが可能となるものと思われる。そこで、本研究では、実際に人口減少の兆候が見られる地方都市（神戸市）を対象とし、環境工学・環境科学的視点からの土地利用計画へのアドバイスをステークホルダーに提供するためのツールづくりを第 1 の目的、そのツールを利用して実際に人口減少時代における環境共生型土地利用シナリオをステークホルダーと作成することを第 2 の目的とした。そして、この実践成果を通して、他都市でも活用可能な形で「人口減少時代の環境共生型土地利用デザイン指針」の作成を行った。